その本はそこに　読書案内 27　　～ デザインとその思想 ～

デザインのデザイン　原 研哉　（岩波書店 2003 年 10 月）❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

シンプルな装丁ですね。

■原研哉さんは武蔵野美術大学等で教鞭をとるグラフィックデザイナー。日本デザインセンター代表。

杉本貴志氏、深澤直人氏、小池一子氏らと共に、無印良品アドバイザーをしています。

■この本は、デザインとは何か、で始まります。

150 年程前から、ラスキン、モリス、バウハウス・・・、

機械生産の荒ぶる展開による、繊細な生活の美意識が負った痛みへの反発、・・・デザインの誕生。

デザインとは、ものづくりやコミュニケーションを通して自分たちの生きる世界をいきいきと認識すること、と言います。

❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

■日常のリ・デザイン

建築家の坂茂や隈研吾、デザイナー深澤直人、照明デザイナー面出薫などが登場。原研哉さんが手掛けられた、長野オリンピック開会式プログラム、病院サイン計画、松屋銀座リニューアル、書籍のデザイン、無印良品、日本人の生活環境としての住宅事情、陰翳礼賛の話、などなど・・・。

❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

■あったかもしれない万博

愛知万博の初期構想「自然の叡智」の話もあります。テーマの構想委員として中沢新一が理念を文章にし、会場構想を建築家の壇紀彦、隈研吾、竹山聖が受けもち・・・愛知県は国際博覧会の開催権を獲得しました。

会場の候補は森の中でした。瀬戸市のやきものの歴史と分かちがたく結ばれた森でした。

生きた展示資源として、蟻になったようなリアリティで蟻の巣が徘徊できたり、鳥の目、虫の目になって森を体験する企画を最先端技術とともに。パンフレットのモチーフは 300 年前の江戸時代に描かれた「本草図説」という博物絵図でした。そこには自然の創造性を崇拝する真摯なまなざしがある、と言います。（著者：高木春山、20 年余かけて）

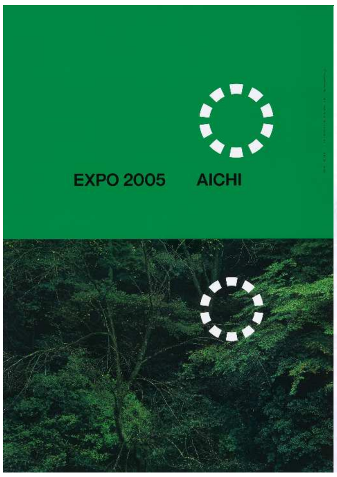
現在は愛知県西尾市に岩瀬弥太郎が寄贈され、西尾市岩瀬文庫にあります。一度見に行きたいと思っています！

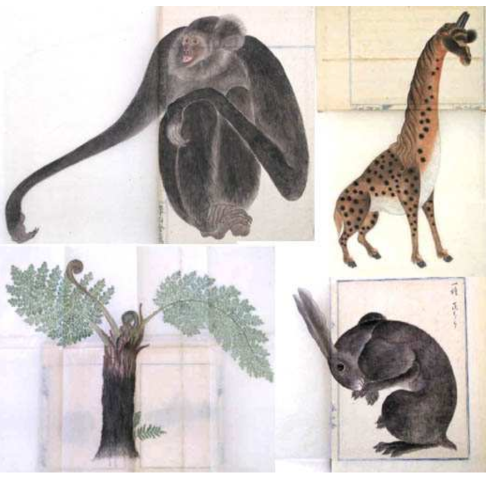
博覧会シンボルマーク等は大貫卓也氏。

人類に注意を喚起するアテンションマーク。

マスコットキャラクターは、僕らの身近にいるクワガタやカナブン、ヤゴやアリジゴクキツネノボタンやオオイヌノフグリなど、日本の里山にいる生物・植物のすべてを万博のキャラクターにする発想でした。

万博は自然破壊でありそういうものに森を使わせてはならないという世論がもりあがりオオタカの営巣問題とともに会場は森の外へ。高規格道路・住宅都市整備は続く…。





自由貸出可（黒野晶大）　EXPO2005AICHI・ｼﾝﾎﾞﾙﾏｰｸ　本草図説（全 195 巻）